

## 令和5年度 学校総合評価

### 1 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点課題として、次の3項目(①学習活動 ②学校生活 ③その他)においてそれぞれ目標を設定して取り組んだ。

#### (1) 学習活動「児童一人一人が主体的に取り組む姿がみられる授業の充実」

放課後等に教員が毎日、何気なく授業等について話し合っていることに焦点を当て、それらを共有し、授業を改善することが、児童一人一人が主体的に取り組む姿がみられる授業の充実と児童の変容(伸び)につながると考えた。そこで「小学部が目指す主体的に取り組む姿」の表を作成し、児童の主体的な姿を目指して授業づくりに取り組んだ。また、「深い学び」「自ら考える」「社会参加」等のキーワードについて、授業の事後研修や学部会、放課後等の日々の話し合いで振り返り、理解を深めた。

その結果、授業や児童の主体的な姿について日々話し合うことが、授業の充実や児童の変容(伸び)につながるといった教員の意識は高まった。また、同僚同士がお互い学び合う、認め合う気持ちも大切であることが分かった。

#### (2) 学校生活「災害時における安全指導の充実」

本校は、海岸線から150mの位置に立地しており、学校防災(地震・津波災害)マニュアルの作成、年2回の震災対策避難訓練の実施で災害に備えている。しかし近年は、感染症対策をしながらの縮小した形態での訓練となっていたため、避難訓練の充実を図りたいと考えた。そこで、①避難訓練した教室で、約15分間程度過ごす ②避難訓練後に、災害備蓄品の試食を行う ③一部児童生徒を対象に、近隣小学校への二次避難訓練を行う ④一部児童生徒を対象に、近隣小学校の児童と合同で避難訓練を行う ⑤保護者への児童生徒引渡し訓練を行うなどの取組を行った。

その結果、医療的ケア児・訪問教育の児童の避難後の対応や、実際に起こった場合を想定して感じたことなど、改めて共通理解が必要なことに関する意見が多数あがり、防災への意識が高まった。

#### (3) その他(研修)「教員のICT活用能力の向上」

障害のある児童生徒が主体的に活動したり、生活場面で活用したりするためには、教員がタブレット端末だけではなく、様々なICT機器に関する情報の収集と理解、活用するための指導力を高める必要があると考えた。そこで、情報図書部員が中心となり、様々な研修会や、授業での実践を通じたICT機器の活用についての情報交換を行った。また、研究授業を実施し、タブレット端末を使った分別ゲーム、チャットボットの活用、JamBoardを使用した分別図鑑の作成を行い、県外講師による指導助言を受けた。

その結果、これまで数人の教員間で情報共有されていたICTの知識とスキルが、研修や日々の授業を通じてより多くの教員が獲得できる機会となり、実際の授業や児童生徒の生活場面に活用する教員が増えた。

### 2 次年度へ向けての課題と方策

- 引き続き小学部が目指す児童の主体的な姿を意識して授業づくり、授業改善の取組を進めながら、児童にどのような変容がみられたか追究していきたい。
- 医療的ケア児・訪問教育の児童が、避難場所に避難した後の対応について検討していきたい。(予備電源の確保や避難場所の表示、看護職員との連携)
- 機器の活用に苦手意識のある教員でも、すぐに活用できる分かりやすいマニュアル作りや簡単な情報共有の方法を提案していきたい。

|            |   |  |
|------------|---|--|
| 重点項目       | 学習活動（小学部）   |  |
| 重点課題       | 児童一人一人が主体的に取り組む姿がみられる授業の充実  |  |
| 現 状        | <p>新学習指導要領実施における「主体的・対話的で深い学び」という学びの転換への対応から、教員の授業力の向上が求められている。また、忙しい日々の中、働き方改革の視点で考えると研修の時間を十分に確保することが難しい状況にあり、限られた時間の中で教員の授業力の向上に取り組む必要がある。そこで、放課後等に毎日、ふだん何気なく授業等について話し合っているところに焦点を当て、授業力向上のための話し合いの充実を図りたい。授業の充実のための話し合いに必要なキーワードと、授業中にみられた児童の主体的な姿を共有し、それらを基に授業の計画、実践、評価、改善をすることで、児童一人一人が主体的に取り組む姿がみられる授業の充実と児童の変容（伸び）につながると考える。</p>  |  |
| 達成目標       | 放課後等に、授業等について話し合ったことが児童一人一人の授業に主体的に取り組む姿がみられる授業の充実と児童の変容（伸び）につながったと答えた教員の数  | 放課後等に、授業の中でみられた児童の主体的な姿を同僚に伝えることができたと答えた教員の数   |
|            | 80%以上   | 80%以上  |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研修と連携し、授業力向上のための話し合いのキーワードの共通理解を図り、児童一人一人の主体的な姿がみられる授業の計画、実践、評価、改善に取り組む。<br/>キーワード：「主体的」「深い学び」「自ら考える」「評価規準」「社会参加」「知識・技能」「自己選択」「思考力・判断力・表現力」「自立」等</li> <li>・放課後等に話し合いの時間を確保するために、会議の精選等をする。</li> <li>・放課後等に授業の計画、実践、評価、改善の話し合いをする中で、授業の中でみられた児童の主体的な姿を同僚に伝えたか、授業や児童の支援についてよかったことを言い合えたか等、学年会、学部会等で定期的に振り返りの時間を設ける。</li> <li>・放課後等、授業等について話し合っていることが児童一人一人の主体的に取り組む姿がみられる授業の充実につながったか等、アンケート調査を学期ごとに実施する。</li> </ul>  |  |
| 達成度        | 授業の充実と児童の変容（伸び）につながったと答えた教員の割合  | 児童の主体的な姿を同僚に伝えることができたと答えた教員の割合   |
|            | 約 82%   | 約 93%  |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領や学校教育目標、日頃の児童の姿等から、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき「小学部が目指す主体的に取り組む姿」の表を作成した。表を参考に児童の主体的な姿を目指して授業づくり、授業改善に取り組んだ。また、方策にあるキーワードについて、授業の事後研修や放課後等の日々の話し合いを通して理解を深めた。</li> <li>・会議の目的や進め方、終了の時間を決めるなど、会議の精選に心掛け、授業の話や児童の支援について話をする時間の確保に努めた。</li> <li>・放課後等の話し合いで、授業の中でみられた児童の主体的な姿を同僚に伝えたか、授業や児童の支援についてよかったことを認め合えたかについて、学部会の時間の中で、5分程度、毎回、振り返りの時間を設けた。</li> <li>・放課後等、授業について話し合ったことが児童一人一人の主体的に取り組む姿がみられる授業の充実につながったか等、目標の達成度をみるために1学期末と2学期末にアンケート調査をした。</li> </ul> |  |
| 評 価        | A   | 放課後等に授業や児童の主体的な姿について日々話し合うことが、授業の充実や児童の変容（伸び）につながるといった教員の意識は高まった。また、同僚同士がお互い学び合う、認め合う気持ちも大切であることが分かった。今後も、小学部が目指す児童の主体的な姿を常に意識して放課後等に話し合うことに努めていきたい。 |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等の話し合いは、時間的な制約がある中だが、若手教員を育成する点でも意義深い取組である。</li> <li>・目標を達成したことで、児童がどう成長したかを教員間で押さえることが重要である。</li> <li>・学校と家庭、福祉事業所等と連携し共有できるツールを、効果的に活用できるとよい。</li> </ul>   |  |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等に行っている日々の話し合いを生かしながら、引き続き小学部が目指す児童の主体的な姿を意識して授業づくり、授業改善の取組を進めていく必要がある。授業の充実により児童にどのような変容がみられたか追究していきたい。</li> </ul>  |  |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

|            |   |  |
|------------|---|--|
| 重点項目       | 学校生活（生徒指導部）   |  |
| 重点課題       | 災害時における安全指導の充実  |  |
| 現 状        | <p>本校は、海拔1mで海岸線から150mの位置に立地している。学校防災（地震・津波災害）マニュアルの作成、年2回の震災対策避難訓練の実施で災害に備えている。</p> <p>児童生徒の実態が多様化し、教職員の入れ替わりも多いことから毎年避難訓練を通して避難方法の確認を行い教職員間で共通理解を図っているが、この3年間は感染症対策をしながらの縮小した形態での訓練となった。そこで、今年度は避難経路や避難場所の確認だけでなく、一定時間避難場所で過ごす、災害備蓄品を試食するなど避難訓練の充実を図りたい。さらに、中1、高1の保護者を対象に、津波避難用屋外階段を使用した避難方法を確認する。教職員を対象に学校で起こり得る災害についての研修を行ったり、防災マニュアルを見直したりすることで児童生徒のより安全な避難につなげたい。</p>            |  |
| 達成目標       | 震災対策避難訓練で避難完了後の対応訓練を実施した回数  | 保護者や教職員対象の防災に関する研修を通して防災への意識が高まったと答えた教職員の割合  |
|            | 年2回以上   | 80%以上  |
| 方 策        | <p>○震災対策避難訓練の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川氾濫避難訓練後に避難場所で30分間程度過ごし、災害備蓄品の試食をする。</li> <li>・震災対策避難訓練で一次避難後、二次避難訓練を行う。</li> <li>・災害時児童生徒引渡し訓練を行う。</li> </ul> <p>○保護者や教職員を対象とした研修会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で想定される災害について学んだり、校内の各場所での対応方法を知ったりする。</li> <li>・災害時に必要な備品、備蓄品等を実際に確認し、使い方を知る。</li> </ul> <p>○学校防災マニュアルの見直しを行う。</p>           |  |
| 達成度        | 震災対策避難訓練で避難完了後の対応訓練を実施した回数  | 防災に関する研修を通して防災への意識が高まったと答えた教職員の割合  |
|            | 2回  | 約83%   |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難用屋外階段を使用した一次避難訓練では、ワンタッチ式ベルト担架の使用や車椅子利用の児童を複数の教職員で4棟2階まで移動する訓練を行った。</li> <li>・河川氾濫時の避難訓練では、一次避難場所の4棟2階の各教室で、約15分間程度過ごすことができた。</li> <li>・震災対策避難訓練では、一次避難場所の4棟2階の各教室で待機した後、中学部、高等部の生徒を対象に災害備蓄品（パン、味噌汁）の試食を行った。また、一部児童生徒を対象に石田小学校への二次避難訓練を行った。</li> <li>・一部児童生徒を対象に、石田小学校の児童と合同で避難訓練を行い、防災交流学習を行った。</li> <li>・災害時児童生徒引渡し訓練の実施(2月)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で、石田地区の洪水ハザードマップを見て、本校が津波や河川氾濫時に浸水区域になることを確認し、避難時に注意することの共通理解を図った。</li> <li>・学校公開DAYで、津波避難用屋外階段を開放し、来校した保護者にも避難経路を確認してもらった。</li> <li>・避難訓練後に教職員を対象に、訓練に関する感想や意見を聞くためのアンケートを行い、防災への意識向上を図った。</li> <li>・保護者に対して、震災時の安否確認に「安心安全メール」を使うことを周知した。</li> <li>・学校防災マニュアルの見直し。（令和6年能登半島地震を踏まえて、3月中旬に実施した）</li> </ul> |
| 評 価        | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員対象のアンケート結果から、避難訓練や二次避難訓練時に、医療的ケア児童・訪問教育の児童の避難後の対応や窓、カーテンを閉めること、実際に起こった場合を想定して感じたことや、改めて共通理解が必要なこと等に関する意見があり防災への意識が高まった。</li> </ul>  |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震で日頃の訓練の大切さを実感した。訓練はすればするほど、精度は上がる。</li> <li>・本校は備蓄食や備蓄品が充実している。電気や水が使えないときはどうするかなど、本校のみならず福祉施設、会社、公民館でも課題が浮き彫りになった。</li> <li>・平日であれば、公民館の使用など、地域とも連携、協力する。</li> </ul>   |  |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア児童・訪問教育の児童が、避難場所に避難した後の対応について（予備電源の確保や避難場所の表示、看護職員との連携）検討が必要である。</li> <li>・登下校のスクールバス乗車時に被災した場合など、マニュアル等の整備が必要である。</li> </ul>  |  |

| 令和5年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 3 - |   |   |
|-------------------------------|---|---|
| 重点項目                          | その他 (情報図書部)   |   |
| 重点課題                          | 教員のICT活用能力の向上   |   |
| 現 状                           | 国のGIGAスクール構想の下、県のICT教育推進事業により、児童生徒全員にタブレット端末が配備された。コロナ禍の中、教材提示や学習教材、校内リモート、コミュニケーションツールとしての活用等、学校生活の中で活用する場面が増えている。しかし、障害のある児童生徒が主体的に活動したり、生活場面で活用したりするためには、教員がタブレット端末だけではなく、様々なICT機器に関する情報の収集と理解、活用するための指導力を高める必要がある。  |   |
| 達成目標                          | ICT活用能力の向上を図る研修会の実施回数   | アンケート実施による教員のICT機器活用意識調査の実施   |
|                               | 年間3回以上  | 向上率20%以上  |
| 方 策                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を使った授業の情報交換</li> <li>・情報図書部による研修会の実施</li> <li>・外部講師による授業参観、事後指導</li> <li>・外部講師の講義によるICTの最新情報と機器の活用方法の習得</li> </ul>   |   |
| 達成度                           | ICT活用能力の向上を図る研修会を実施した回数   | ①アンケート実施による教員のICT機器活用意識調査から、生徒用端末の活用における点の向上率<br>②同アンケートより、授業におけるICT機器活用についての向上率  |
|                               | 8回  | ①約43%の上昇 ②約15%の上昇   |
| 具体的な取組状況                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報図書部員が中心となり、ミニ研修会や日々の授業での実践を通じたICT機器の活用についての情報交換を行った。</li> <li>・情報図書部員を中心に、8回の研修会を行った。夏季休業中には、職員全体を3グループに分けて、Microsoft Teams、Forms についての実践的な研修会を実施した。</li> <li>・中学部1学年の生活単元学習「別名人になろう」で研究授業を実施し、タブレット端末を使った別ゲーム、チャットボットの活用、JamBoardを使用した別図鑑の作成を行い、県外講師による指導助言を受けた。</li> <li>・県外講師による講義「After GIGAにおけるICT機器の活用について」を全教員が受講し、実際の授業や家庭・学校生活場面で活用できるタブレット端末の機能やアプリケーションの活用について理解を深めた。</li> </ul> |   |
| 評 価                           | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の場を多く設定したことで、これまで数人の教員間で情報共有されていたICTの知識とスキルが、研修や日々の授業を通じてより多くの教員が獲得できる機会となり、実際の授業や児童生徒の生活場面に活用する教員が増えた。一方で機器の活用に苦手意識のある教員に対するサポートには課題が残った。</li> </ul> |
| 学校関係者の意見                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器に苦手意識をもつ大人はいるが、実際に活用する機会をもつことが重要である。</li> <li>・児童生徒は障害の程度に応じて、日頃からICT機器を使用している。</li> <li>・地震の避難時に、生徒がタブレット端末を操作して、情報を入手してくれた。</li> <li>・学校でICT機器を活用する知識や技術を獲得しても、卒業後の福祉の現場では、十分に活用できる環境が整っていない面がある。</li> </ul>   |   |
| 次年度へ向けての課題                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の場を多く設定したことにより、教員が知識を求めたり教え合ったりするようになり、授業や支援に広く取り入れるようになってきた。児童生徒の活用率も上がり、主体的に学習や学校生活に活用するようになってきている。今後は、機器の活用に苦手意識のある教員でもすぐに活用できる分かりやすいマニュアル作りや簡単な情報共有の方法を提案していきたい。</li> </ul>   |   |